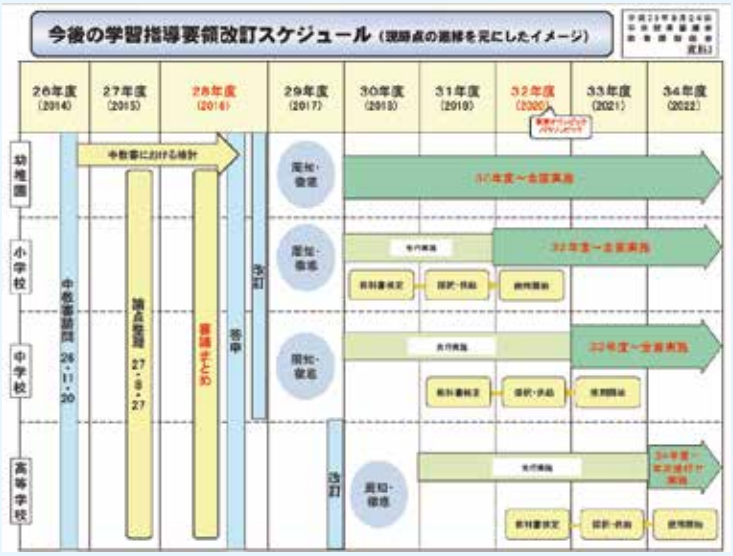
29.5.31
佐倉市 教育センターだより Vol.42
平成29年5月31日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400　http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0-0_6.html

『主体的・対話的で深い学び』

～好学進取の気風を育てる～

佐倉市教育センター所長　古　林　聖　哉



平成２９年３月３１日に次期学習指導要領が公示され，オリンピックイヤーの２０２０年の全面実施に向けて，今後も『生きる力』を育むための取り組みがますます推進されます。

社会は急激な情報化やグローバル化等が進み，将来の予測が困難な時代です。そんな社会を生き抜くためには，今持っているスキルを１２０％発揮しなければなりません。

教育現場もこの環境の変化を避けて通ることはできません。不易である教育の理念と柔軟さ＝フレキシブル（flexible）を持って乗り切ることが求められます。環境の変化に順応できない場合，多くのものは淘汰されます。生き抜くためには「柔軟さ」も不可欠な要素になります。次期学習指導要領ではその部分についても応えています。

佐倉市教育センターの事業の一つは「学力向上推進」です。学力向上は，次期学習指導要領でも「生きる力」の理念とそれに必要な資質能力『確かな学力』により引き継がれています。具体的には**『主体的・対話的で深い学び』**により知識の理解の質を高め『確かな学力』を育成することです。これは市内全校で実施されている佐倉学の目指すところに通じます。「佐倉学」では佐倉の歴史，先覚者の生き方を通して，学ぶことの大切さを理解し，新しいことに積極的に挑戦しようとする「好学進取」の気風を子供たちに育むことがねらいにあるからです。

『主体的・対話的で深い学び』は，子供たちが将来，環境の変化に順応するための大切なスキルになります。これを実現させるには授業改善が必要です。「学習指導要領の改正・告示・公示について（通知）」（平成２９年３月３１日）のなかで**『主体的・対話的で深い学び』**は，“これまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化”や“これまでと全く異なる指導方法を導入しなければならないと浮足立つ必要はなく…授業を工夫・改善する”等，今までの学校の授業実践を肯定的に評価したうえで，子供たちの知識の理解の質の向上を図り，これからの時代に求められる資質・能力を育んでいくことが重要と述べられています。

フレキシブルに授業改善し佐倉学を推進することで，郷土佐倉への愛着を育み，社会に貢献できる子供たちの育成が図られます。佐倉の子供たち全員が有為な人材として成長していくために，佐倉市教育センターは学校を側面・背面から全力でサポートしていきたいと思います。

平成28年度 佐倉市学習状況調査　～主体的な学習で学力向上を～

平成28年度佐倉市学習状況調査について，基礎基本（A問題）に関する具体的な問題の正答率から考察した手立てと，度数分布から分析した児童・生徒の実態に応じた手立てについてまとめました。
ここでは，調査結果の一部を掲載していますので，詳細は報告書をご覧ください。

基礎基本（A問題）の結果から見られる考察と手立て

国語A

学　年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学３年	弱い	97.7 %	親切	72.4 %
小学４年	終わる	90.4 %	短い	62.1 %
中学１年	幼虫	80.9 %	補う	58.9 %
中学３年	洗う	97.1%	署名	53.9 %

考察

漢字の「書き」は，日常目にする機会や書く機会が多い漢字の正答率が高い。一方で，混同しやすい漢字や送り仮名が不確かな漢字の正答率が低い。

手立て

➡ 掲示物を活用して日常的に目にふれるようにし，**視覚を通して**定着させる。
➡ 混同しやすい漢字の意味を**自分で調べる**，意味の違いや使い方を**少人数で話し合う**等，児童・生徒が主体となる活動を取り入れる。

算数・数学A

学　年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学３年	630÷7	90.3 %	420÷4	67.8 %
小学５年	1/3+2/5	93.2 %	2・2/3+1/2	66.2 %
中学１年	$6x+5=17$	84.9 %	$1/2\,x-1=3$	53.8 %
中学２年	$-8a\times5b$	95.5 %	$(-5x)\times(-7x)$	78.8 %

考察

基本的な計算では，真分数の計算が帯分数になる等，計算の要素が一つ変わったり加わったりすると，正答率が大きく下がる傾向が見られる。

手立て

➡ 間違えやすい計算は，誤答例を提示して誤った理由について**根拠を明確にしながら話し合う。**
➡ 好学チャレンジプリント等を活用し，ドリルタイムや家庭学習で**短時間で繰り返し取り組む**ことにより基礎基本の確実な定着を図る。

理　科

学　年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学４年	閉じ込めた空気の性質	90.0 %	閉じ込めた空気と水の性質	72.1 %
小学５年	発芽に必要な条件（水）	91.7 %	グラフから発芽に適した時期を選ぶ	66.7 %
中学２年	セキツイ動物の分類（ホニュウ類）	91.4 %	消化のしくみと血液・血液循環を関連付ける	37.9 %

考察

観察・実験したことやイメージしやすい内容について正答率は高い。しかし，関連付けて考える内容，イメージしづらい内容の正答率は低い傾向が見られる。

手立て

➡ 複数の資料や既習の知識と関連付けて，**根拠を明確にしながら考察・検討させる。**
➡ イメージ図やモデル図を用いて**視覚的にとらえさせたり，説明しあったりさせる。**

英　語

学　年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
中学１年	一般動詞 疑問文	80.7 %	be 動詞 否定文	31.4 %
中学３年	肯定の平叙文 受け身	83.9 %	現在完了形 経験	56.2 %

考察

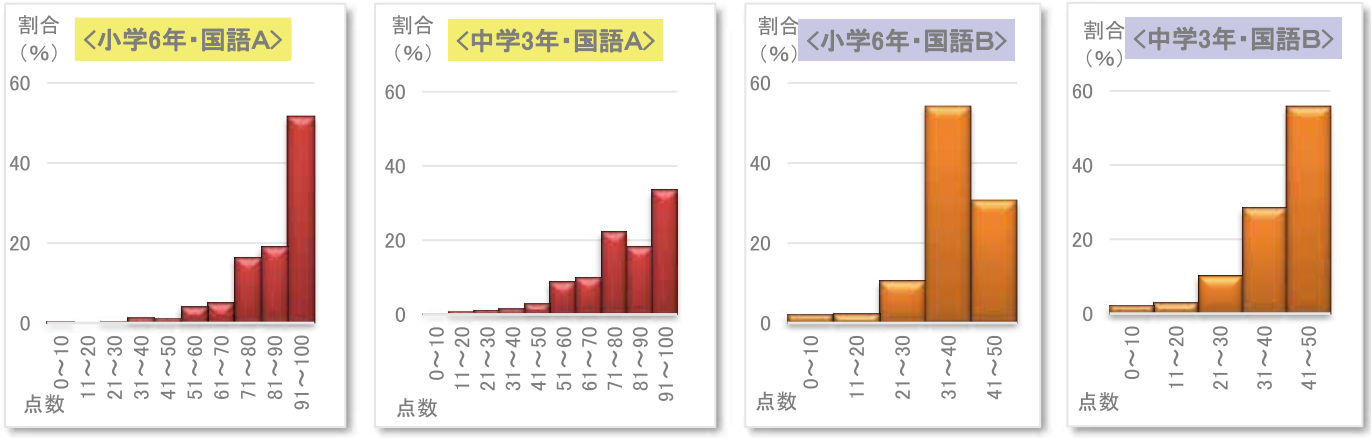
耳に慣れていない表現，日本語で同じ表現がないものや概念が理解しにくい表現について，正答率が低い。

手立て

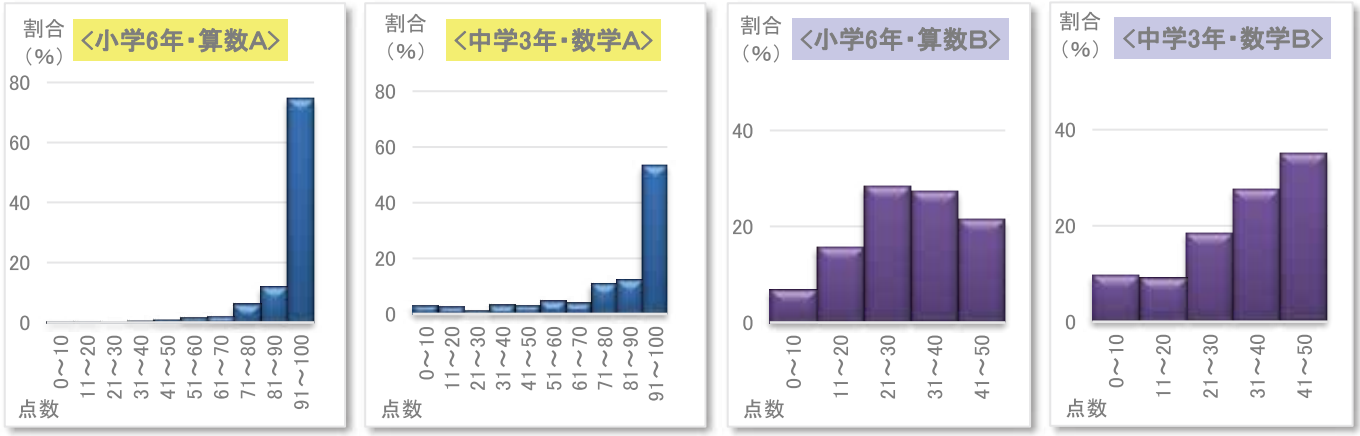
➡ オールイングリッシュの授業で**多くの英語表現を耳に慣れさせる**。（**意識を向けて**聞かせる。）
➡ **生徒同士のQ&A活動**を増やし，疑問文・否定文の作り方や答え方に慣れさせる。
➡ 日本語表現にはない概念について，**丁寧に説明する**機会を設ける。

度数分布の比較　＜基礎基本（A問題）と活用力（B問題）＞

国　語



算数・数学



国語，算数・数学のA問題とB問題の度数分布を比較すると，共通した傾向が見られた。

A問題では，中学校より小学校の方が度数は高得点に分布しているが，B問題では，逆に，中学校の方が高得点に度数は分布していた。小学校では知識・技能の定着に力を入れ，中学校では知識・技能を活用する学習を行っているためであると考えられる。

今後，**小学校では発達段階に応じて活用力を育てる指導**を，**中学校では活用力を育てる過程で必要となる知識・技能を身に付けさせる指導**に留意していきたい。これには，自主的・自律的な学習態度は欠かすことができない。**「何のために学ぶのか」という学習意義**を子供と共有していくことが重要である。

佐倉市の教育相談事業 ～将来を見つめ ネットワークを広げよう～

適応指導教室（志津教室・佐倉教室）

何らかの理由で学校生活に不適応な状態になっている児童生徒に対して，学習や小集団生活の場を提供します。教室には，いずれも児童生徒との生活経験が豊富な学校教育相談員７名を配置しています。相談員や子供たち同士の交流を通して，自己肯定感を高めるとともに，一人一人が安心して生活でき，少しずつ学校復帰や希望する進路へ向かっていけるよう支援していきます。また，保護者・学校・適応指導教室が一体となった不登校相談のネットワークづくりを進めていきます。

〇開設日　・月曜日～金曜日（祝日，年末年始は除く）午前9時～午後4時
・児童生徒の活動は　午前10時～午後3時　となります。

志津教室

佐倉市西志津４－１－２
（西志津ふれあいセンター２階）
電話　４８９－１００２

小集団による活動を行っています。
コミュニケーション能力の育成や学習支援をしています。
※志津教室は，第２・４月曜日は複合施設内のためお休みとなります。

佐倉教室

佐倉市栄町8番地７
（佐倉市ヤングプラザ2階）
電話　４８４－６６１１

個別対応を中心に学習支援を行っています。
小集団の活動も行っています。

こんな一日を過ごします

10:00	朝の会　一人一言（今日の目標）
10:10	各自の計画に沿った学習
11:00	休憩
11:10	各自の計画に沿った学習
12:00	昼食（お弁当）・昼休み
13:00	昼の読書活動，スポーツタイム
	楽しい活動（創作活動・卓球・レク等）
14:50	清掃　帰りの会　一人一言（今日の反省）
15:00	帰宅

こんな活動もしています

毎日の学習のほかに，創作活動や校外学習などの交流活動を行っています。

教育電話相談

佐倉市ヤングプラザ２階に設置している「教育電話相談室」では，市民，保護者・児童生徒など様々な方からの相談を受け付けています。経験豊富な相談員が丁寧に対応し，アドバイスをしてくれます。

また，来所しての面談を行うこともできます。内容は「家庭問題に関すること」が一番多く，「不登校に関すること」「学校に関すること」の順となっています。より専門的なアドバイスを受けられる相談窓口を紹介する場合もあります。

心の教育相談員

佐倉市内の小学校８校に心の教育相談員を配置し，児童・保護者の悩みや不安に関する相談を受け付けています。

友だち関係や学校に関することだけでなく，日々の生活の中でのちょっとした悩みも遠慮なく相談できるような体制作りを心掛けています。

また，校内を巡回して子供たちの様子を捉え，さりげなく声をかけるなどの支援も行っています。

特別支援教育へのサポート

～相談窓口として、各機関との充実した連携を図ります～

発達相談

担当の学校教育相談員：山辺浩子・小原清子・谷上千秋
学校支援教育コーディネーター：野老優子・岩崎由理子

学校（園）生活や家庭生活でうまくいかないことが多い，学校への行き渋りがあるなど，困難さが見られる幼児・児童・生徒，その保護者の方を対象に相談事業を行っています。

必要に応じて保護者のご承諾のもと，諸検査等を実施して，より詳しく実態把握を行い，結果に基づく適切な支援について担任の先生とも連携を図り，楽しい学校生活につなげていきます。

就学相談

担当の指導主事：腰地みなこ・稲葉光政

保護者の方や学校からの就学に関する相談に応じます。学校・関係諸機関等と連携しながら，その子供にとって一番望ましい就学の方法や，適切な教育支援の内容を一緒に考えていきます。

各相談の実施日時・場所・連絡先

○相談日　月曜日～金曜日（祝日，年末年始を除く）
　　午前１０時３０分～午後５時００分
○場　所　佐倉市将門町７（佐倉市立佐倉東小学校内）
○電　話　４８６－２４００

インクルーシブ教育システム推進事業

佐倉市教育委員会では，インクルーシブ教育システム推進事業として，特別な支援が必要な子供が，みんなと一緒に適切な支援を受けながら，最大限に能力を発揮できるようにするための体制づくりを進めています。

◉市内教職員の専門性の向上と意識の高揚に向けた取組

①専門性を高めるための研修及び担当者会議の実施
②「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に関する情報提供
③言語教育研修会開催による「ことばの発達」への理解推進

◉スクールクラスター（教育資源）構築によるチーム支援充実に向けた取組

①学校支援教育コーディネーターを活用した言語通級指導教室利用児童への支援
②「佐倉市障害者総合支援協議会療育支援・教育部会」の活用による他機関との連携強化
③教育センターを中心とした特別支援学校との連携（センター的機能，居住地校交流，通級等）
④佐倉市ライフサポートファイルの活用推進

◉適切な合理的配慮の提供に向けた取組

①チーム支援会議の実施による合理的配慮の整理
②個別の指導計画・支援計画の活用推進
③校内研修会等における合理的配慮の提供への理解及び取組の推進

教育センター事業紹介

教育センターは，６つの事業《学力向上推進事業・特別支援教育推進事業・教育相談事業・道徳教育推進事業・学校図書館活性化事業・教育センター普及振興事業》を中心に，センター機能の充実を図り，各校の教育活動のニーズに合った支援をしていきます。

学力向上推進事業
- 佐倉市学習状況調査
- 好学チャレンジプリント作成
- 全国学力・学習状況調査
- 教育課題調査研究

特別支援教育推進事業
- 就学指導・就学相談
- 発達相談
- 特別支援教育関連研修会
- 特別支援教育支援員配置

教育相談事業
- 適応指導教室の運営
- 教育電話相談室の運営
- 心の教育相談員配置
- 教育相談基礎講座

佐倉教育ビジョンの推進

道徳教育推進事業
- 佐倉学道徳副読本「佐倉の道徳」活用推進
- 佐倉学道徳教材の作成
- 佐倉学検定の推進

学校図書館活性化事業
- 学校図書館担当者会議及び研修会
- 学校図書館司書派遣

教育センター普及振興事業
- センターだよりの発行
- センター等報告会の開催

センター機能を生かした取組や情報・資料の提供をしています。

研究紀要の閲覧
市内各小中学校で実践・作成された研究紀要を管理しています。ご連絡いただければ閲覧ができます。

各種教科書の閲覧及び貸出
佐倉市で採択していない，小中学校の教科書も管理しています。閲覧・貸出を行っていますので，指導の参考にご活用ください。

先覚者パネルや佐倉学関係資料
佐倉市ゆかりの先覚者の顔写真と経歴が載っているパネル(21 名)を保管しています。佐倉学の学習でご活用ください。

画家「芝千秋」の作品複製画
浅井忠の弟子であった，芝千秋の鉛筆画水彩画（複製）を保管しています。図工・美術の授業でご活用ください。